

ル呂4
1606
卷3

洛陽名取集卷之三月録

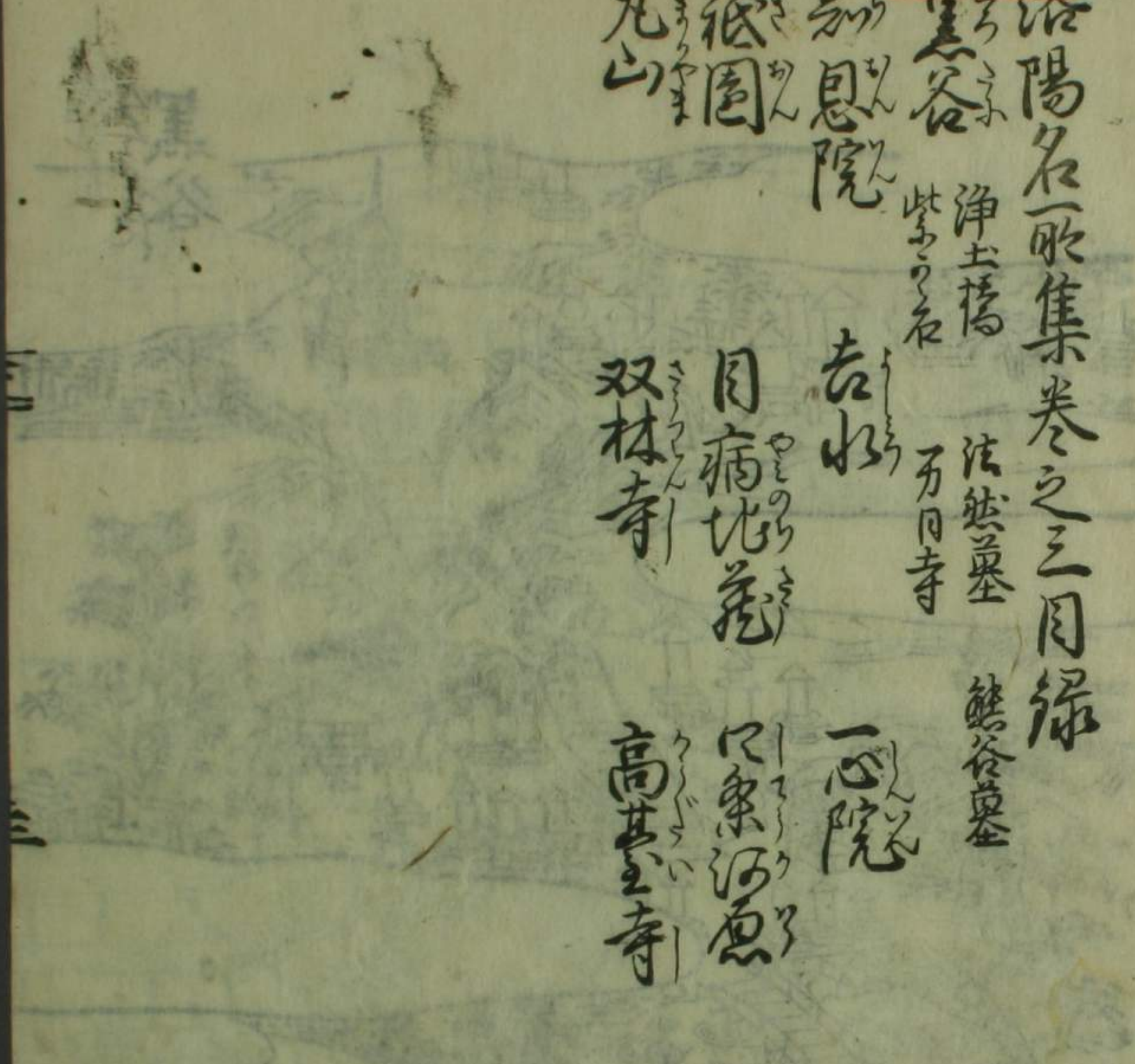


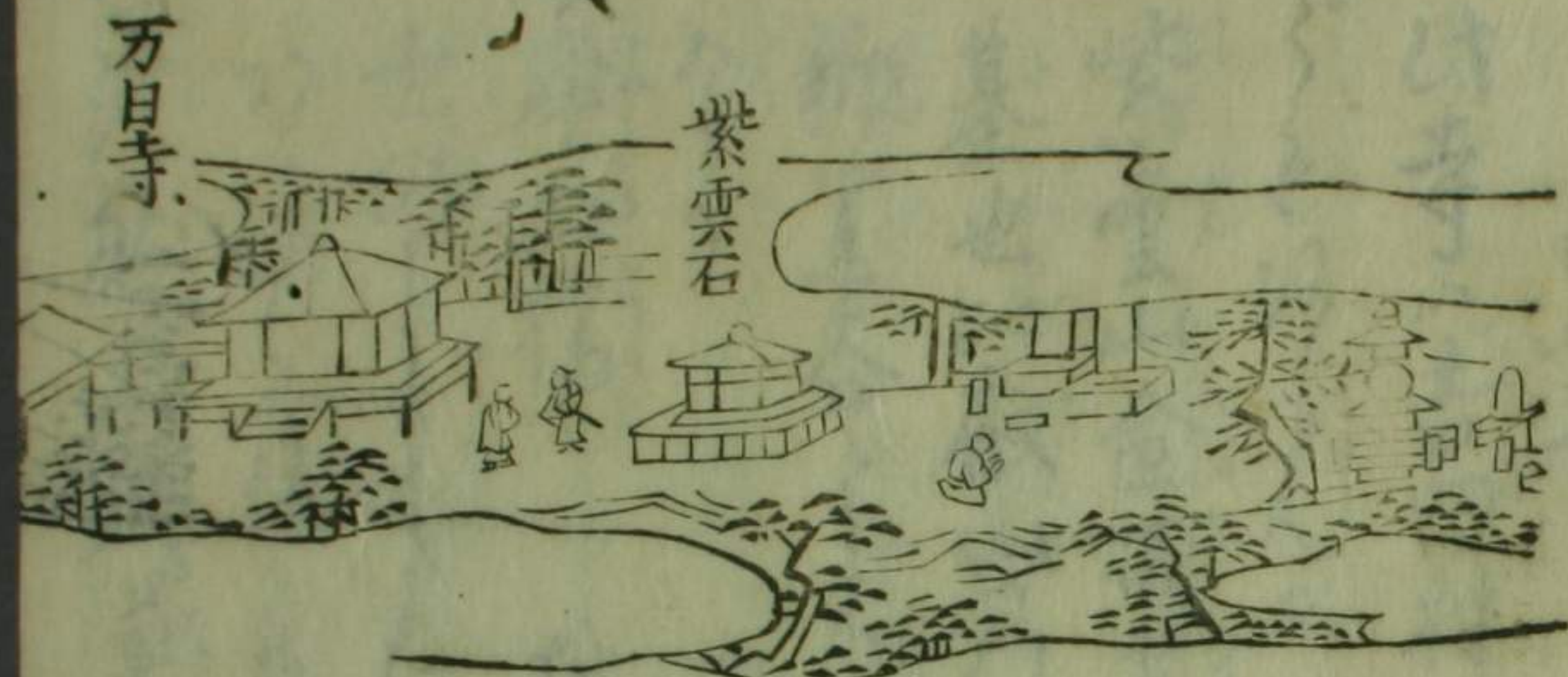
黒谷 浄土橋
知恩院 此寺の石

去水 万日寺
月痛地蔵 法然墓

一心院 鯉谷墓
只象河魚

長樂寺 真著魚石
八坂







黒谷

○け寺ハ吉田村乃もあつた所

やぐらとゆふん

紫雲山金戒光明寺也野と。法然上人開

基也。比叡山乃黒谷よりうへにうはせらる

新里谷と云。浄土四ヶ所中寺乃その一

なり

浄土橋

中堂乃東南なり

世のころとぎに徳之合入るるなりありあり

のけしと橋とをす

○法然上人墓

浄土橋よりまをすのこ

釈迦尊ハ漆氏作別稻岡乃人なり父の時國
母ハ秦氏とてや。子たりのしけりん成るけふ
此非にいのさし一バ本夜母た夢のうらに
判りのしつと見ゆるとくとも母輩腥と
とらうらうらと。長兼二年四月七日誕生
をきうらそ魚しくに泣くらうらうらと
眼黄色よりそやうらうらと。七歳よりう
てけしとふ。西向をうらうらと宗族うらうらと
一とちうと如九歳のうらうらと父時國漁長河堀
帝之に冠言せうらうらと一安かうらうらと
衛曲衛曲に冠言せうらうらと一安かうらうらと
一ふ空をうらうらとうらうらと。ハハハハハ

あう。この冠考乃眉同にあらうらうらとけ
くさばかりんらうらうらと。遂ふらうらうらと
如。時に空を小矢兒かくいんらうらと。とそ
那乃菩提寺を觀覺さうらうらと。うらうらと氣招
ふらうらと。ゆ子やうらうらと。一あ。哭兒かうらうらと
ごうらうらと。延暦寺の源光にわく判り
に。行を駿驥五重村宗博うらうらと。やうらうらと
又功德院乃皇園を授り。年十五あうらう
判り受戒し。之暮のるよ。公教に通じ。後
皇各の睿空にまうらうらと。密來木葉律成
り天藏經律論他宗示カハる路うらうらと

わさみ。行を遊まふ。ふな。たてん。く
め。かく。藏後に謁し。唯識とのへ慶雅
けりて。報華をそらけり。二師は
く。感。て。後。供物。お。く。う。う。雅。の。平
疏。を。寓。し。ま。し。の。空。は。け。う。う。う。う。う。
弘。去。ち。り。あ。り。お。く。の。通。り。の。う。う。の。義。お
我。も。け。く。ち。ま。の。ひ。て。八。宗。乃。の。傷。心。宗。に
入。の。つ。れ。教。相。あ。く。に。出。た。け。た。て。信。師。の
澄。生。集。に。記。す。し。れ。り。う。所。業。を。し。し。し。
淨。土。專。念。を。し。し。と。し。し。兼。安。で。年。に
里。谷。に。つ。く。流。の。の。あ。り。る。さ。水。よ。安。若

し。し。れ。り。専修。圓頓。菩薩。乃。大戒。を
そ。へ。僧。俗。と。も。ふ。市。を。わ。り。し。り。て。は
高倉。帝。の。に。あ。り。受。戒。お。り。海。へ。う。は
并。ぐ。藤。相。国。兼。實。淨。土。の。事。と。り。し。し。
空。遣。擇。集。け。く。の。く。空。に。志。し。し。し。し。し。
専修。の。秘。要。し。し。し。し。し。頭。真。靜。嚴。明
遍。證。真。公。派。ら。ぐ。皆。端。母。の。翹。楚。な。り。け
し。し。し。し。空。に。志。し。し。し。し。し。し。し。し。し。
又。空。法。華。之。勝。修。し。し。し。し。し。し。し。し。し。
れ。け。ら。の。乃。白。象。道。場。に。あ。り。し。し。し。し。し。
華。嚴。經。傳。ぎ。し。し。し。時。几。楨。の。下。に。し。し。し。

か。於小蛇コナヘのて。其徒信空シノウより。乘ノ
ゆりや。次日アシタノより。こころとぬ。その西ニシの蛇ヘビ
空ウチに。まよふ。おぼしめ。華嚴ケガン乃護神ノゴカミや
おんこころ。事コト形カタのよ。や。い。おんこころ。於オ下ゲ
まよふ。こころ。おんこころ。又マタ皇太后クワンノミヤ上ノ西門院ニシカドより。あを
請モトメじ。一七日イツシツチのうら。戒イマエのゆ。ど。のめ。終マタ
門カド侯ホウのうら。よ。一の蛇ヘビ。広盤ヒロバン。う。う。う。う。
て。説セツめ。の。こ。び。の。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
蛇ヘビ。ひ。み。く。く。あ。日ヒ。よ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。け。く。こ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

に似ホノか。こ。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
藤相國フジノサウクニより。おん。物モノの。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
上ノ。金園光キンエンミツの。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
と。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
か。ま。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
日ヒ一七日イツシツチの念仏ネンブツの。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
一二月イツニゲツ一七イツシチの。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
地宮ヂミヤウ殿テンの。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
おん。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

三年正月以日彌陀親自在大塚至の画像
 室中に現く一日よ又之画像みし。建永二年
 春二月。讃勅小竈をせしむとせよとぬれ
 せしむ。弘治のころなりと志けりふたのころに
 けし。建暦元年詔せしむ。弘治におしむ
 のの正月大塚にいしむ。弘治のころに
 終は。弘治のころなり。弘治のころに
 すん。弘治の助標。弘治のころに
 つた。弘治のころに。弘治のころに
 のお。弘治のころに。弘治のころに
 今又弘治のころに。弘治のころに

大九日の朝。弘治のころに。弘治のころに
 弘治のころに。弘治のころに。弘治のころに
 かして。弘治のころに。弘治のころに
 覺乃僧体。弘治のころに。弘治のころに
 遍照を偈と稱し。弘治のころに。弘治のころに
 弘治のころに。弘治のころに。弘治のころに
 ○能入道。平大夫。弘治のころに。弘治のころに
 弘治のころに。弘治のころに。弘治のころに

熊谷も頼朝將軍の仕置し壽永二年
一谷のついでに大夫敦盛ととこし。大夫は
よじ二八とるも小あもふかひやたにんきうげ
ちれびらちもいしてたしけるもせし
ちよよんといかり乃ちあふたあちあも
たむじげよせらちちちちちちちちちち
首こりそのまう。紫まこし。法然をたのこ
蓮性と名なうんハチこめく。ちちのあも
や。このまうと紫まこし。ちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちちちちちちち

東鑑にありに熊谷次郎直實の執務と地
境と論し。ころころころころころころころ
しとあやし又兼元二年九月三日直實の男は
アキラ。小次郎直家ははる人同と自ら。執終
し。侍とあやし。ころころころころころころ
ま。洛中よおふま。熊谷の道俗。圍繞せ
たれ。ちちちち。念仏とちん。袈裟衣。ちち
くし。其日未刻。小かり。ころころころころ
本時黒谷内永運院を主。長圓と。小僧。
一つめ。仁清。ちちち。ころころころころころ
か。熊谷入道の母衣。ちちち。ころころころころ

しはるゝ也。誠よりんもくもくちせぬが
げふんうらゝと。たゞしにいつくも
のりもたれもたげにんかまうあひ
か下野の能谷うり寺よかくやゆらんと
かろく。余にけ具せんうきさるんし求
くしがげふんうらゝと。たゞしにいつくも
わどつものもくもくにいつくも

○紫雲石

答うらゝと。山一町どりりには

法然上人用いぬ。この石よりけいせんに
なむらうらゝと。たゞしにいつくも

けり寺もくも紫雲山と号し。ゆがとてけ
石。小堂よ入とふ。人これやうらゝと。其堂より
かいらひとせん

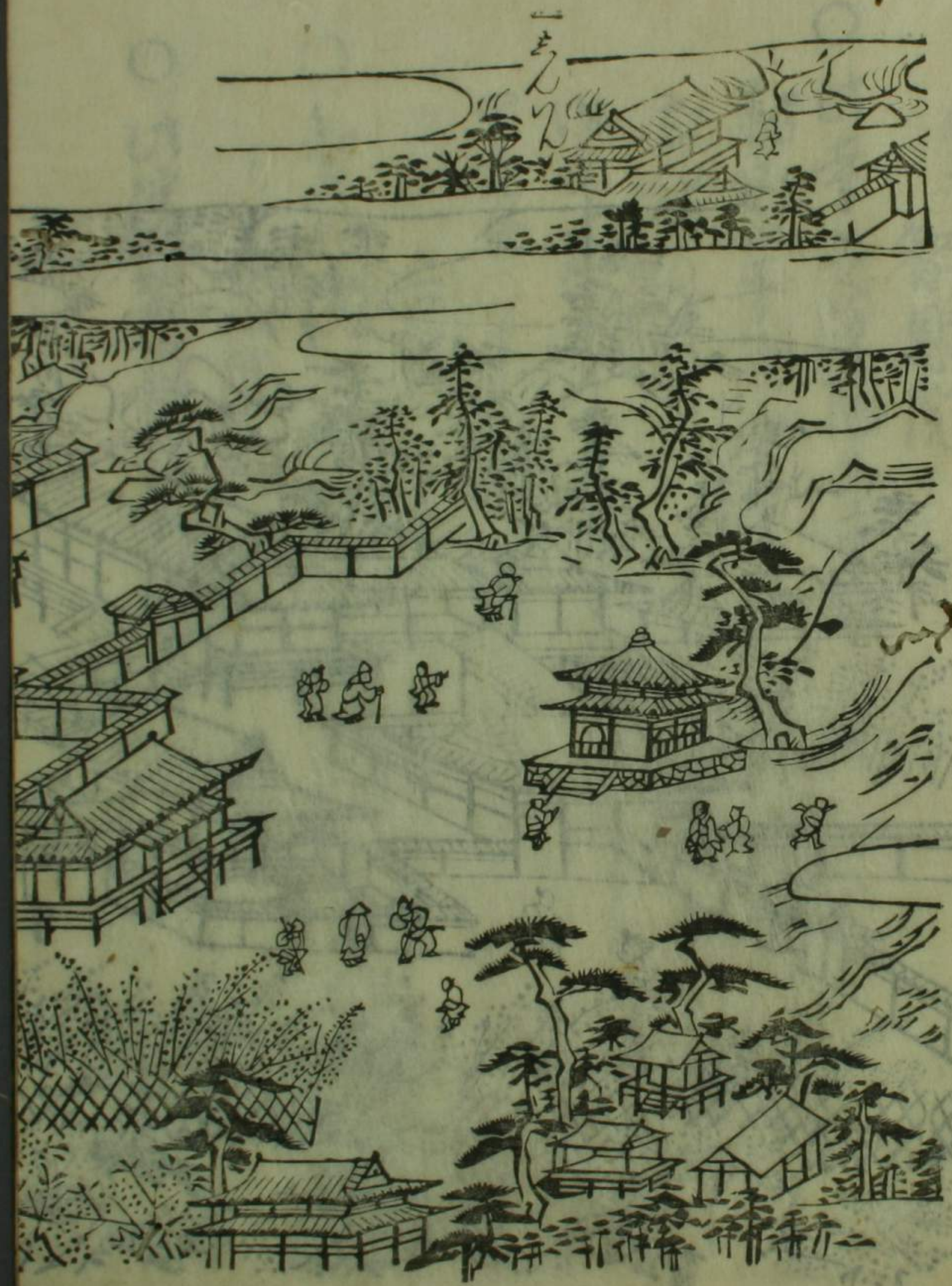
○方日寺

けふら石の小也。け寺の用基之高

麗人宗権と云

思嶺

○けふら谷より東とわらう
思前多末足道年人莫通在乍毛公之曲道為



智恩院



智恩院

○け孝ろ洛陽の東也

兼安四年漁空墨谷とので吉水ありては
 龍念の法をいさめ侍りしん。け院志の
 時の建物をしるべき。漁空のふしに
 墨谷のトにさるるをい

吉水

○智恩院の趣るるに静閑といふそ
 一心院

○け院。智恩院乃とたり

真葛原

○けお智恩院のくんならふ草部とて
急須之のよふおまはねはしくはるそ免
のくまらつらつらに風さつぐなり

急須石 けお智恩院のありく門二町より

今く中やういふ世話うてんえ急須石

のくけしけくまらつらつらに風さつぐなり

とていふまじり

古今石の名あり事。おお那とていふ

まの越まは石橋石後興安縣のあり。官郡建

部郡のさういふ人おお那とていふと郡督

郡やなづく。宋の國の急須石とていふ

とて。楚の急須石とていふとていふ

はらう。黄初年へ石は比つて羊とていふ

武帝へとていふとていふとていふ

の多と酔るのくよしとていふとていふ

乃興成醜ふまらふとていふとていふ

南の石女やなり。武昭の女はけく

まはなりとていふとていふとていふ

うとていふとていふとていふ



祇園

○け宮ハ南向也。馬井ノ感神院ト云額ノ事。

其ノ北ノ青蓮院尊純法親王ノ御所ナリ。

其ノ南ノ風光ノ事ナリ。

松乃モ生々々々。林好シク。冬ノ幕ノ事ナリ。

其ノ北ノ事ナリ。

其ノ南ノ事ナリ。

其ノ北ノ事ナリ。

其ノ南ノ事ナリ。

其ノ北ノ事ナリ。

其ノ南ノ事ナリ。

て。從ゆりいやらるる女はまぶちのあはる
こまみくく。まはくく。情諸あ
は。わくく。め

祇園二十二社の中なめき。延喜式神名帳
よのせゆ。石清水吉田北野をわかれ
く。式外乃社と号しぬ。ゆふの
と。ち。後朱雀院長曆三
年八月に。えの四神とせよ。二十二社と
め。式外乃社と号しぬ。

祇園縁起云天竺北有國名九相其國有園名
吉祥其園中有城之中有王名半頭天皇又名
武吉天孫娶安瀾羅龍王女為后生八王子
其眷屬八萬四千六百五十四神

素戔嗚唐よ牛頭天王又武塔天神
天竺よ金毘羅神又摩訶羅神
古王よ

撰集抄に。御念大の神乃託宣ふ。中作ハ
盧遮那久遠成正覺為度衆生故示現大
明神

は神社に貞観十一年に託宣す。中作ハ
速須佐雄能
神也。蘇我氏孫孫にあらんて。茅渟に

一。天下の病災を癒せざるを治すを以て

臨時祭者六月十五日也。崇徳院天治元年始。有勅使殿上五位奉_三疎遊_及有宣命。命百又有走馬勅樂東遊歌云。

神代の八坂此里とてふ

よもやそよもつらうとせいの妙く人といふに
後三条院の時。祇園ふじ草花もあはよ。東遊お
うにふへ身寄めくくまは。藤原経衡も
千路振のこの園さう娘と松の糸代ゆへも
いふめけりりやうやふあ。後拾遺とてなり。

玉葉集に祇園御神の衣寄とて我宮と

あもくの揚花はうらんとく人代身をも所の
舞をけん

御聖會六月十四日也。け日。三条大孫。越
る形へ十八の心やう。疎遊とけけわト
ぬ。若の七日。は採下中くく出はうとて
おのてあまを七のれがさ。まかこ十八
心は。ととに。ま。け。ゆ。め。後陽の
お。ま。け。け。に。か。あ。く。く。
ま。け。人。の。肩。い。ざ。く。め。う。う。ま。ま。
ま。ま。あ。り。と。と。

瘼止地藏

○け堂ハ。祇園町建仁寺へさうだ隅にあり
世とほくく。その仏に抱き。月わけくもの
彩彩とかがりごといいやなま

四糸何魚

○此ころら。それやぐ二町くくもほくんの
種くはくも人かごくく。思をゆくれたりれ
ごのくく。孫がりゆくく。二さく。本徳徳
やるあけ糸よりひ。きぞくま由東のの
ほくよ。いさくく。人のさくも抱くやま
くも抱きまうく琴鼓くく。物よりへく。

形をくそや。つくひ。人形うつくく
けくむく。くく。あかあ。はもあ
く。にめめ。く。あも。これゆ
きくく。あたな。なぐ。いひわく。あ
周の柳王から。あ。偃師く。く。あ。あ
人をけく。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ
さけバ。漢陳平の。あ。あ。郭郎の。あ
へま。く。あ。あ。ひ。あ。あ。あ。あ
刻朱着衣鳴佩。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ
去人間世々外誰言。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ
ハ。詩。は。く。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ

アトク人。半臂やうな。かたあつらひには
いさゝかゆい。たふせもあせり。僕子ぐい
道せげ。さき振野。歩らう。ソウ。いふ。お
かめける。ん。ち。杖の。この。まで。と。と。と。と。
ふる。あ。つ。た。生。ま。い。帽子。は。か。さ。と。と。と。
さん。さ。さ。風。や。ま。い。ら。ぶ。い。も。え。物。の
ほ。い。さ。さ。あ。ゆ。く。た。た。れ。身。む。ま。ご。い。の。ま。ま。
と。を。ま。ご。う。さ。い。が。ゆ。い。ま。う。う。是。より。打。た。た。
え。う。ご。い。ひ。い。ん。せ。ら。い。い。や。月。は。は。ら。か。
ら。い。く。客。乃。枯。槁。せ。い。も。わ。い。ら。ぶ。い。の
に。い。く。い。の。と。た。と。う。の。い。や。

長樂寺

○けち。祇園。れ。東。双。林。寺。の。水。は。ら。る。と。な。る。ハ。十
一。面。觀。音。也。一。二。准。胎。と。い。ふ。と。ぞ。宇。多。院。を。は。め
創。ま。す。と。わ。く。な。ま。と
け。て。の。下。拈。上。人。を。建。礼。門。院。の。戒。の。由
師。と。く。安。德。天。皇。の。侍。衣。を。い。ぬ。は。つ。と。と。と。
り。い。く。い。の。と。た。と。う。の。い。や。

丸山

○長樂寺。れ。水。双。林。寺。の。水。也。と。も。丸。山。双。林。寺。
ら。い。く。因。り。く。越。越。の。と。こ。ら。や。い。り。ま。る。る。
つ。の。日。や。う。

双林寺

○け寺を丸山の南。祇園より瑩のついでなりと
なる。薬師なり。尤大史尾張定鑑の建立
と云ふ事あり

寺の中。西行法師の秘蔵あり。楊子く
塔など。然るも。今と伝へられたる。なほびら
あり。墨の。外平判官康頼入道定照
の塚あり。康頼丹波の将成。経法勝寺
後寛僧都と。おれ。及。逆の。ん。あ。て
権。硫黄嶋へ。流。さ。て。せ
て。が。将。と。に。ゆ。と。終。く。の。ら。康。頼。の。ま

る。す。ま。ら。や。な。さ。ま。ま。家。物。終。上。け。ふ
さ。に。と。せ。る。果

高基寺

○け寺を双林の南。八坂の北。自然居士は
雲居寺の旧跡也。関白秀吉公は。政正の
菩提下なり。曹洞家。八坂。を
建仁の末寺也

八坂

○け塔は清水と祇園の中間。高基寺の
南の土層の塔也。法観寺と云。淨藏貴一
加持の塔と云ふ事あり

茶^チ呪^{ジュ}一しておのげうら。桃とやう一如藏八
坂寺に富^{トモ}一々^{ツツ}の中。賊^{ゾク}おほく入一^ハな呪よ
く。傳^{ツタ}一^ハの恩^{オン}一^ハとて。之^{コノ}一^ハとや。三^{サン}寺^ジ
異^イ一^ハとく^クやうゆり。如^ニ茶^チの^ノ学^{ガク}内^{ノウチ}を
う。頭^{カビ}密^{ミツ}にわらう。悉^{シツ}果^カの^ノ天文^{テンモン}。易^イ筮^シ繆^{ミウ}内^{ノウチ}と
伝^{ツタ}管^{カン}三^{サン}音^{オン}律^{リツ}文^{モン}章^{ショウ}伎^ギ術^{ジュツ}の^ノ乃^ノ一^ハと^トび^ビ貫^{クワン}一^ハ
振^フ平^{ヘイ}一^ハの^ノ。康^{カン}保^ホ元^{ゲン}年^{ネン}仲^{チュウ}冬^{トウ}一^ハ日^{ニチ}に。電^{デン}
居^イよよあし^シく。遊^ユ一^ハと^トび^ビ女^メ七^{シチ}四^シ

Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side.

